

選考結果総評

一般財団法人日水コン水インフラ財団では、助成・支援事業について2回目の募集をいたしました。研究・活動助成の両部門への応募件数については、残念ながら前回より少なくなりましたが、はじめて事業化支援部門への応募がありました。

今回も芸術関係や社会学系の研究申請、学校教育、水インフラ関係でも未来からの視点を取り込むなど、多様な分野からの応募をいただきました。

水に関心をもつ輪の広がりを感じられるものの、今後、さらに広げるために、当財団に求められる取組みについて、考えていかなければならないようです。

今回、研究助成部門では、専門コースのみ3件の応募があり、地域の歴史に根差したかわづくり、水都東京にふさわしい水循環をテーマとした2つの申請を採択しました。活動部門（本格コース）では、水循環に関わる社会教育教材を市民団体の経験知を集めることによって編集しようという試み、未来世代の思考を想像し、そこから水道への関心を喚起し、自由な発想で水道を見直そうという試みの2つの申請を採択しました。活動部門（一般コース）では、昨年採択した団体からの応募が過半数を占めました。昨年度の実績もある水を通して学校と地域をつなぐ活動、食文化を継承するために生態系保全の必要性を啓発する活動を採択しました。引続いたの応募のなかには、昨年度の活動との差別化が明瞭でなく、連続応募の条件を満たしているとは言えない申請もみられました。

事業化支援部門では、セラミックスの技術者が自ら保有している技術を水インフラの分野での適用にチャレンジしようという申請がありました。社会的意義のある領域への技術の適用可能性はあると考えられますが、ビジネスモデル、製品化へ向けた課題も少なくないため、申請内容を精査し、有識者や水インフラ関連企業等からサポートを受けてインキュベートされることを期待したいと思います。

この度は多数のご応募をいただき、ありがとうございました。次年度も引き続き積極的なご応募をお待ちしております。

2022年6月1日

一般財団法人 日水コン水インフラ財団